



夏休み親子自然教室

静岡地区を対象にした自然教室を行いました。リサイクルトイレトーパー工場(丸富製紙)を見学した後は、富士常葉大学で山田辰美教授から富士山についてのお話を聞き実験をしました。

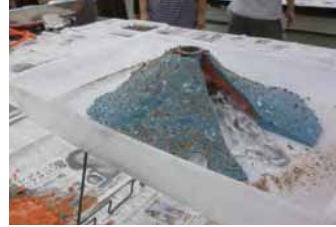
富士山の火山噴火のメカニズムを学び実験で火山の層を作ったり、富士山に降る雨が長い時間をかけて地上に降りてくることを実験を通じて学びました。



富士山に降る雨の実験



溶岩が流れ富士山ができるまでの実験



富士山の断面を観察



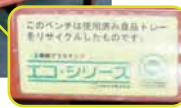
噴火のメカニズムの実験



リサイクル工場見学

中央化学(トレイリサイクル工場)

店舗で回収したトレイをリサイクルしてベンチを作る工場を見学しました。



三功(廃棄物リサイクル工場)



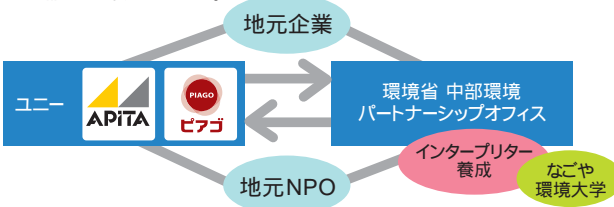
丸富製紙(牛乳パックリサイクル工場)

店舗で回収された牛乳パック類をリサイクルして、トイレトーパーを作る工場を見学しました。



インタープリター養成

市民講座なごや環境大学で「お店探検隊インタープリター」を養成しています。インタープリター養成講座2012は「ショッピングが地球を救う」をテーマに作り手の思いを知り、それを伝え広げる講座を行いました。



味噌蔵に行き、味噌のできる工程を学びました



インタープリターの皆さんと協力しながら講座を行っています



EPOC

EPOCは中部地区を活動拠点とする環境パートナーシップクラブで、業種や規模の垣根を越えた企業が集まり、地域社会で活動しています。ユニーが所属する「次世代交流分科会」では、子ども達が分かりやすく学び、体験する講座を開きました。ユニーでは、「環境にやさしいお買い物」をテーマに小学校や児童館で講座を行いました。



名古屋市立八社小学校



安城市中部児童センター



愛西市市江児童館





エコ・ファーストの約束

ユニーは、環境への取り組みの業界のトップランナーとして2008年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わしました。さらに2010年には、エコ・ファースト制度の改定により、新たな約束を更新しました。日本の環境問題は、地球温暖化対策とともに食品廃棄物の問題など生活に密着したものが多くなってきています。企業だけではなく、市民のライフスタイルを変革するような取り組みが求められています。

エコ・ファーストの約束を達成

環境省からエコ・ファーストに認定された企業が集まり、さらなる持続可能な社会実現を目指して2009年にエコ・ファースト推進協議会が発足しました。協議会は業界を超えて情報交換や啓発活動を行っています。2012年度には、企業の環境プレゼンテーションのコンクール「環境メッセEXPO」を開催、ユニーは「お店には秘密がいっぱい、エコ口探検隊出発!」というメッセージで「環境パートナーシップ会議賞」を受賞しました。

また、第3回エコとわざコンクールを実施し、エコプロダクツ展の会場で表彰式を行いました。アピタ・ピアゴの店舗からの応募で、2名が入賞しました。

エコ・ファースト推進協議会

さまざまな業界から選ばれたエコ・ファースト企業が集まり、業界を超えて持続可能な社会を構築していくために、2009年にエコ・ファースト推進協議会が発足しました。協議会では会員企業の情報交換や次世代を担う子ども達を応援するイベント「エコとわざコンクール」を開催し、社内外の啓発活動を推進しています。

また、企業の環境活動をさらに世の中に浸透させるため、エコ・ファースト推進協議会加盟の38社は、「環境メッセージEXPO2012」を開催しました。企業の環境活動を各社の担当者が「13文字程度のメッセージ」にまとめ、会場で3分間のプレゼンテーションを行いました。ユニーは「子ども環境学習」をテーマに発表し、当日の審査で「環境パートナーシップ会議賞」を受賞しました。



環境省南川事務次官に報告する佐古社長



環境メッセージEXPO



エコとわざコンクール表彰式

エコ・ファーストの約束の進捗状況

<p>1</p> <p>食品循環資源のリサイクルループによる再生資源化および、容器包装廃棄物の削減に取り組めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品リサイクルの取り組みを全店舗で実施し、2012年までに再生利用等実施率60%を達成します。 	<p>▶ 再生利用等実施率 66.5%(2012年度)</p>	<p>p.37 参照</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生利用事業計画を制度を活用し、食品リサイクルループを店舗のある1府18県に拡大します。(福島県を除く) 	<p>▶ 全府県にリサイクルループを構築(2012年度)</p>	<p>p.37 参照</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品廃棄物発生抑制の取り組み (食品売上1万円あたりの発生量を2012年までに2007年と比べ10%削減) 	<p>▶ 22.4%削減 (2007年度比)</p>	<p>p.37 参照</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 2012年までにレジ袋の辞退率75%を達成します。 	<p>▶ レジ袋辞退率 75.0%(2012年度)</p>	<p>p.31 参照</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体と協力し、使用済み容器包装を店頭回収しリサイクルします 	<p>▶ 店頭回収実績 3,288t 前年比 102.8%(重量)</p>	<p>p.33 参照</p>
<p>2</p> <p>持続可能な社会構築のための環境学習を実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども環境学習を全店舗で実施します。 	<p>▶ 全店舗で実施</p>	<p>p.11 参照</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境関連事業者(廃棄物・リサイクル関連など)に対し、研修を実施し法令遵守・リサイクル推進を促します。 	<p>▶ 研修 / 2回</p>	<p>p.58 参照</p>
<p>3</p> <p>消費者のライフスタイル変革による、低炭素社会実現を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境に配慮した商品やサービスなど、消費者に地球温暖化防止を目指したライフスタイルを提供します。 	<p>▶ 環境配慮商品eco:lonの商品開発・販売</p>	<p>p.25 参照</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費者の来店方法として、電気自動車の充電器の設置を進めます。 	<p>▶ 充電器設置店舗 / 18店舗21台</p>	<p>p.24 参照</p>





エコ・ファーストの約束 (更新書)

～環境先進企業としての地球環境保全の取組～

平成24年3月22日

環境大臣 細野 豪志 殿

ユニー株式会社
代表取締役社長 前村 哲路

「未来の子供達に美しい自然を残したい」

ユニー株式会社は、食品循環資源の再生利用等を推進すべき食品等の小売業としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、持続可能な社会構築と社会貢献のため、以下の取組を進めてまいります。



食品循環資源のリサイクルループによる再生資源化および 容器包装廃棄物の削減に取り組みます。

- 食品リサイクルの取り組みを全店舗で実施し、2012年度までに再生利用等実施率60%を達成します。
- 再生利用事業計画制度を活用し、地元のリサイクル事業者・農業者等と連携し、地産地消の取り組みとなるよう配慮した食品リサイクルループを2012年度までに、当社が店舗展開する1府18県に拡大します。
- 容器包装使用抑制への取り組みとして、2012年度までに会社全体としてレジ袋の辞退率75%を達成します。
- 地方自治体と協力しながら、お客様が持ち帰った使用済み容器包装を店頭回収し、限りある資源を有効に循環させます。



持続可能な社会構築のための環境学習を実施します。

- 未来を創っていく子どもたちに対して、買い物を通して持続可能な社会（低炭素社会・循環型社会・自然共生社会）を実現するために学び、考え、行動する環境学習を2012年度までに全店舗で実施します。
- 当社と取引のある環境関連事業者（廃棄物・リサイクル関連など）に対し、関連法令や最新技術などの学習会や視察をととして、法令遵守・リサイクル推進を促します。



消費者のライフスタイル変革による、低炭素社会実現を目指します。

- 環境配慮商品やカーボンフットプリントの表示、地産地消費作物などの購入や、容器包装の適正使用などを通して、消費者に地球温暖化防止を目指したライフスタイルを提供します。
- 消費者の来店方法として、電気自動車の充電器の設置、公共交通利用啓発などを推進します。



ユニー株式会社は、上記取組の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。





環境マネジメント

ユニーは、持続可能な社会の構築を営業活動を通して実現することが企業責任であると「環境方針」に掲げています。現在のことだけでなく、未来に向かって地球環境を守り、人間が自然と共存していける社会、持続可能な社会を「地球にやさしいお買い物」によって実現したいと願い、お客様や生産者、取引先そしてその他の関係する人達と一緒に目指していくために、環境マネジメントを実践しています。

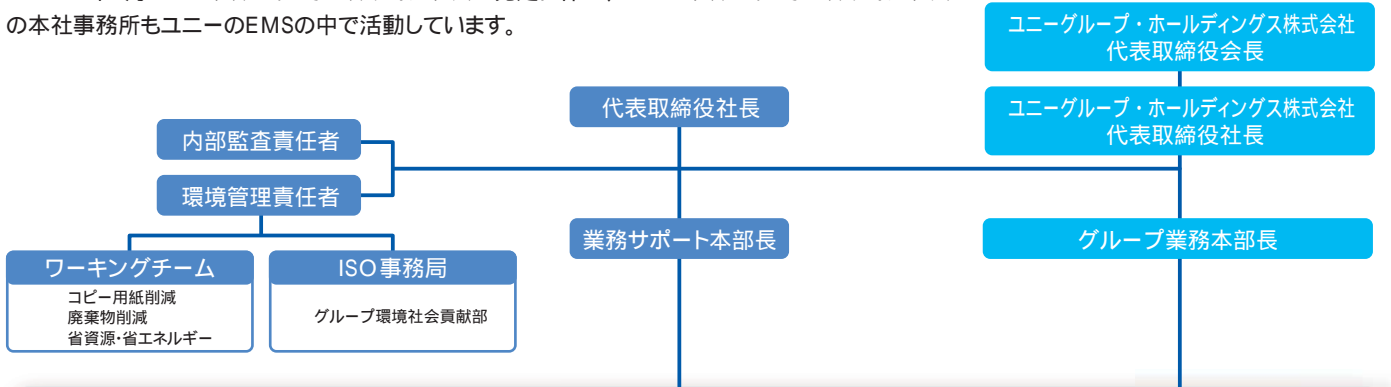
環境マネジメントシステム(EMS)の組織と活動

ユニーは営業活動の中で地球環境に対してさまざまな影響を及ぼしています。商品を生産者から仕入れ、運び、販売し、お客様に消費していただくバリューチェーンのそれぞれの過程で発生する環境に悪い影響(環境負荷)をできるだけ低減することを環境目的目標としています。また、環境配慮商品の販売やエコストアの建設、容器包装の削減や廃棄物のリサイクルなど、環境保全活動をさらに進めることも、環境マネジメントシステムで実践しています。



このシステムは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(検証)・Action(見直し、改善)のスパイラルで環境方針を実現し、持続可能な社会構築のために継続的に改善していくものです。

2013年2月ユニーグループ・ホールディングスの発足に伴い、ユニーグループ・ホールディングスの本社事務所もユニーのEMSの中で活動しています。



各部門の代表的な環境目的目標

業務サポート本部 総務部 法務部 業務指導部 店舗会計部 人事教育部 コピー用紙使用量削減(総務部)、従業員に対する環境保全・社会貢献に関する意識・知識の向上(人事教育部) 改善部・国際部	IT物流本部 情報システム部 物流部 ECビジネス部 電子帳票化によるペーパーレス(情報システム部)センター集約による物流の合理化(物流部)ネットスーパーの展開を推進(ECビジネス部)	開発本部 企画部 管財部 建設部 店舗開発部 エコストアの建設と環境配慮設備の評価	グループ戦略本部 経営企画部 関係会社管理部 グループ会社のシンクタンクとして環境問題解決の提案 秘書室・広報IR室
テナント本部 企画管理部 開発導入部 運営部 催事部 テナントの廃棄物削減、再生紙の分別徹底	営業サポート本部 商品・品質管理部 お客様サービス部 営業政策部 営業企画部 営業管理部 店舗の省エネ設備への投資推進(営業管理部)、チラシ媒体を活用した環境保全・社会貢献に関する消費者への訴求(営業企画部)	衣料本部 レディス部 子供ベビー部 メンズ部 インナー部 靴・服飾部 商品企画開発部 環境配慮商品の販売	グループ営業企画本部 グループ商品企画部 グループ商品品質管理部 グループ物流部 グループ販促部 グループ会社の環境配慮商品の開発
住関本部 ヘルス&ビューティ部 ホームファッション部 ホビー&スポーツ部 環境配慮商品の販売	食品本部 ドライ食品部 鮮魚部 精肉部 青果部 コンセ部 プロセスセンター管理部 店舗での食品廃棄物の発生抑制。環境配慮商品の販売	関連事業本部 コーホーム事業部 夢屋書店事業部 業務部 太陽光発電商品やLEDなど環境配慮商品の普及・販売	グループ業務本部 グループ業務企画部 グループ環境社会貢献部 グループ会社の環境影響の負荷軽減に繋がる施策の企画、立案、実施 監査室
関東事務所 業務管理部 関東営業部 衣料部 住関部 食品部 食品リサイクルの推進。レジ袋辞退率向上。事務所の環境活動	山静事務所 業務管理部 山静営業部 衣料部 住関部 食品部 食品リサイクルの推進。レジ袋辞退率向上。事務所の環境活動	北陸事務所 業務管理部 北陸営業部 衣料部 住関部 食品部 食品リサイクルの推進。レジ袋辞退率向上。事務所の環境活動	グループ経理財務部 グループ会社の資金の調達、運用業務をユニーHDに一元化することによる作業性効率の向上



環境マネジメント(ISO14001)の取り組み

2004年1月に本社事務所がISO14001を認証取得し、その後関東事務所・山静事務所・北陸事務所がそれぞれ本部として認証取得しました。2008年2月、本社が各本部を統合、同年8月にはユーストアを合併し組織変更・拡大を図りました。

また審査機関は、2004年から2009年までオリオン・レジストラー・ジャパンでしたが、2010年からは株式会社日本環境認証機構(JACO)に依頼しています。



サーベイランス審査



サーベイランス部門審査



サーベイランス現場内審査



環境目的目標にエコ・ファーストの約束を設定

環境マネジメントの目的目標については、各部門ごとに業務の環境影響調査を行い、環境側面を抽出し、影響の重大なものを改善するよう環境実施計画を策定しています。

さらに、エコ・ファースト企業としての高い環境目標を掲げている「エコ・ファーストの約束」を果たすために、環境実施計画に以下のことを組み込みました。

食品リサイクルの推進
環境教育の実施

容器包装の削減とリサイクル推進
環境配慮商品の開発および販売拡大



ゴミの運動いなざわ

継続的な環境目的目標

省エネ活動.....空調温度規制・照明の個別管理・クールビズ、ウォームビズ
省資源.....コピー用紙使用量削減
廃棄物の削減とリサイクル推進
本社周辺の清掃活動

ISO14001推進のための社員教育

環境方針・環境目的目標や環境マネジメントシステムの理解を深め環境活動を実践していくために、適用範囲の全従業員と関係する人々に教育を行いました。環境目的目標は、部門ごとに業務の環境影響調査を行い、環境側面を抽出して設定しました。「環境実施計画」策定についての教育を実施しました。

また、環境マネジメントシステムの内部監査の監査員教育を行い、認定取得者は258名になりました。



内部監査監査員合宿



従業員集合教育

緊急事態への対応

環境影響で重大なものに災害があります。愛知県稲沢市の本社では2011年の東日本大震災レベルの災害が東海地方に起きることを想定し、防災訓練を計画し、実施しました。



初期消火訓練



防災訓練(グループ会社合同)

ISO内部監査

ユニーでは「企業価値向上」の観点から「エコ・ファーストの約束」が制定され、ISO14001推進の重要性と活動範囲はさらに拡大しています。「環境マネジメントシステム」のISO14001要求事項への適合を確認するために、登録企業内に内部監査が規定されています。

内部監査にあたってはこの新たな要件を鑑み、厳正な業務遂行と整備・運用への積極的な提言を心がけ、取り組みへの貢献を果たしたいと考えます。



監査室長
水谷 功





環境計画の概要

ユニーは持続可能な社会を目指し、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するために、環境方針に基づき、さらにエコ・ファースト企業として、継続的な環境保全活動を行っています。そのために、ISO14001マネジメントシステムを用い、具体的な環境目的および数値的な環境目標を設定し、達成するために取り組んでいます。現在だけでなく、未来のことも考えて計画を立て、お客様と一緒に「環境にやさしいお買い物」で持続可能な社会を実現します。

環境計画

環境方針	取り組み項目	2012年度目標	
環境マネジメントシステムの構築	ISO14001による全社における環境マネジメントシステムの構築	2013年3月31日までにエコ・ファーストの約束を達成	
		環境負荷をCO ₂ 換算し、目標管理を実施 各部署の目的目標を策定し、目標管理を実施	
エコストアの実現	省エネ設備によるエネルギー削減	照明器具のLED使用を拡大	
	環境配慮商品の販売による低炭素型ライフスタイルを提供する	環境配慮型PB商品ecolonの開発・販売を拡大(イズミヤ、フジと協働) 環境配慮商品の環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求	
環境負荷の低減	省エネへの取り組み	CO ₂ を原単位で1%削減する	
		省エネ委員会で目標策定し、目標達成を図る	
	物流システムの見直し	使用エネルギーを1%削減する	
		物流の合理化による環境負荷低減を図る 段ボール 2%削減	
	包装資材の使用削減	ecolon商品の容器包装、有料レジ袋にバイオマスプラスチックを使用する	
		包装資材使用削減 5% レジ袋有料化中京地区での完全実施を図る レジ袋辞退率 75%	
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	廃棄物排出削減	廃棄物排出総量 前年比 3%削減	
	食品リサイクル推進	営業店舗所在地1府18県でリサイクルループを構築(福島県を除く)	
		リサイクルループ参加店舗を拡大(2011年5月現在90店舗) 135店舗	
		リサイクル率 60% 発生抑制 20%(売上100万円当たり40kg) 再生利用等実施率 65%	
	店頭容器包装回収の推進	リサイクルボックスの回収実績5%向上	
バイオマスプラスチック製容器包装	リサイクル実績向上 3% リサイクル製品生産拡大 店頭回収を拡大		
環境情報の開示と環境保全活動	環境情報の開示	啓発用などのDVD作成(従業員教育用)	
		売り場での環境配慮商品の情報開示 店舗での情報開示推進	
	環境保全活動	エコ博、環境展を開催 6店舗 / 8回実施 クリーンアップキャンペーン全店で年2回実施	
		環境教育、啓発活動の拡大	廃棄物分別・CO ₂ 削減についての教育を実施 子ども環境学習全店実施、農業体験10回実施 アビタ30周年エコ博8回実施 環境関連事業者連絡会セミナーを開催
環境汚染防止	環境汚染物質の排出抑制と監視	全店舗での排水水質監視を実施(清掃点検表の完全実施) 低濃度PCBの適正管理実施	



2012年度結果	評価	2013年度目標
エコ・ファーストの約束を全て達成	○	新たなエコ・ファーストの約束を締結
エネルギー、廃棄物排出状況、レジ袋削減、排水水質管理、リサイクルなどの管理システムにより、目標管理を実施	○	CO ₂ 排出を抑制するための実施計画と手順を構築
建て替えたピアゴ蟹江店の設備に省エネ機器を導入し、効果を測定	○	新店、改築店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定
環境配慮型PB商品eco!onの開発・販売を拡大 eco!on開発数 8件、売上 5億579万円(135.9%)	○	環境配慮型PB商品eco!onの容器包装の環境設計を図る(イズミヤ、フジとも協働)
低炭素型ライフスタイルをお客様と一緒に推進する「リサーチャーズクラブ」がモデル店舗(アビタ千緑店)でトレイレス実験を実施	○	環境配慮商品のバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求
前年比 25.7%増加	✕	CO ₂ を原単位で1%削減する
全店で省エネ委員会を開催	△	省エネ委員会で目標策定し、目標達成を図る
電気使用量 96,8870千kwh(98.6%) 1.4%	○	使用エネルギーを1%削減
ガス使用量 22,065千m ³ (95.7%) 4.3%		
石油使用量 8,325千 (94.7%) 5.3%		
輸送距離・量・エネルギー使用量いずれも増加。ただし、原単位は前年比99%	○	物流の合理化による環境負荷低減を図る
前年比 5.4%削減	○	段ボール 2%削減
バイオマスプラスチック製容器の店頭回収・再生製品を作製	○	PB商品の容器包装を見直し、バイオマスプラスチック製容器包装の導入拡大
レジ袋 839t(98.6%) 1.4%	○	包装資材を3%削減
包装紙 149t(86.6%) 13.4%		
紙袋 175t(86.6%) 13.4%		
食品取り扱い217店舗中173店舗で実施(79.7%)	△	関東地区での有料化店舗を拡大
レジ袋配布店舗 24.3%、有料化店舗 87.8%、全社換算...75.0%	○	レジ袋辞退率 76%、未有料化店舗の辞退率を向上
廃棄物総排出量 4.2%削減 廃棄物処理場・リサイクル現場を確認	○	廃棄物排出総量 前年比 3%削減
営業店舗所在地1府18県でリサイクルループを構築(福島県を除く)	△	リサイクルループに周辺店舗を組み入れ、規模の拡大を図る
リサイクルループ参加店舗 133店舗		リサイクルループ参加店舗 140店舗
リサイクル率 57.0%	△	リサイクル率 60.0%
発生抑制 20.5%		
再生利用等実施率 65.0%		
牛乳パック 575,332kg(96.1%)	✕	リサイクルボックスの回収品目を増やす 全店4品目を回収 一部店舗で透明プラ容器を回収しリサイクルを実施
トレイ 291,151kg(95.6%)		
アルミ缶 555,663kg(104.0%)		
ペットボトル 1,865,920kg(106.0%)		
リサイクルボックス回収実績 2.8%向上		
全店舗から回収	○	全店舗から回収
リサイクル製品(定規)作製		リサイクル製品品種拡大
店頭回収35店舗で実施	△	店頭回収を拡大
環境学習テキストを発行	○	環境学習DVD作成 チラシ・POPなどで環境配慮商品を紹介し、拡販 新しいポスターを作成し、さらに情報提供を推進
eco!onなどの情報を開示		
環境掲示板の設置を標準化		
エコ博・環境展を開催 10店舗	○	未実施店で開催 クリーンアップキャンペーン全店で年2回実施
全店実施(全国表彰される)		
テナントの廃棄物分別教育を実施	○	新店・テナントの廃棄物分別教育を実施 子ども環境学習全店実施、農業体験6回実施
子ども環境学習全店実施、農業体験6回実施		
エコ博を6店舗で8回開催 メッセナゴヤ、EPOCに参加		
講演会、リサイクル施設見学会 2回実施	△	環境関連事業者連絡会セミナーを開催 全店舗での排水水質監視を実施(清掃点検表の完全実施) 低濃度PCBの適正管理実施
水質検査の実施と排水管理マニュアルの徹底		
適正管理の実施		

